

主体的に考える児童の育成
— 国語科における協働的な学習を通して —

5年生の研究授業より

「新聞記事を読み比べよう」の単元で、書き手の意図について考える授業を行いました。

今回の検討会の内容から、5年生の授業で共通理解したいところは以下の点です。

- グループ内の話し合いを活性化させるためには、記録や発表などの係分担も教師が意図的に行うとよい。(発言の苦手な児童に記録をさせるなど、特定の児童ばかりが中心にならないように。)
- 指導案の「指導計画」には「単元の評価規準」の欄も設ける。

今後の研究授業の中に、意識的に取り入れましょう！！



野中先生の指導助言より

今後の参考になりそうなところを載せてみます。

比べ読みは、同じところ、違うところを明確にして読み取る。



違うところにこそ、書き手の意図が推測できる。

キーワードをつなぐだけでなく、ことばの奥底にあるものに気付かせることが大事。



交流場面でもその部分の議論を。